

静岡・静岡高 関東同窓会 会報

静岡・静岡高関東同窓会
会報 第35号
平成5年6月18日発行
編集人 上 杉 重 吉

わが青春の野球時代

67期 山川 静 夫



「あら、また出掛けるの？」

「うん、ちょっと行ってくる」

静岡に帰省中、のんびり自宅で休養していると、三丁ほど先の静岡グランドから、野球部の練習の声が風にのって聞えてくる。もうじっとしてはいられない。女房にからかわれながら、私は自転車にうちまたがり、グランドにかけつけるのだ。

「あ、また出掛けるの？」

「あれっ、四番がいらないじゃん」

「昨日な、打球が足イ当って骨にイミリがいつちやっただつてさ」

「やいやい、夏に間に合うだか」

そんな話に聞き耳をたてながらフリーバッティングやシートノックを見ていると、はるか青春時代の母校の風景が浮かんでくる。

あの頃のグランドはひどかつ

ネット裏には、熱狂的な静岡ファンが大ぜいつめかけていて、静岡弁丸出して選手の噂だ。

「あの子は一年生だけん、なかなかバッティング、ええじゃん」

「守備もうひとつだけえがね」

た

旧三十四連隊を借りた城内高校。その野球場たるや、内野こそ地ならしはされていたが、外野は瓦礫同然、バックネットは今にも倒れそうだった。せめてものなぐさめは、家康公お手植の蜜柑の向うに、いつもくっきりと秀麗な富士の姿が眺められたくらいだ。

私はライト後方の旧兵舎の教室の前に腰をおろして、放課後の野球練習に見入るのである。

と、打球が右中間をぬけ、不規則なバウンドをしながらころがってきて、建物の床下に風を通すための三十センチ角の穴に入ってしまった。

「おい、また頼むぞ」

打球を追ってきた野球部員が、私にその声をかけて定位置にもどっていったあと、私は、やおら腰をあげる。そして、クラス一番のチビを利用して、風穴からゆっくり体をすべりこませる。当時の硬

球は宝物のようにあつかわれていて、それを取り出す役目なのだ。湿気をふくんだカビくさい床下には、蜘蛛の巣も張っていて顔にべったりと吸いつく。私は小さい体で器用に這いまわりながら、暗闇の中で眼をこらして、一つ、二つ、と球を探すのだった。

また或る時は、グランド脇の木によじ登って、クラスメイトが楽しむ草野球を見ながらラジオの実況放送の真似事もした。あれが、アナウンサー志望のきつかけになったのかもしれない。

自分のグローブは、古いズックの袍を五つの指に切り抜いて縫いあわせ、中に綿を詰めた自家製だった。野球に明け、野球に暮れる毎日だった。

雲は湧き光あふれる昭和二十五年夏、高校生活最後の県大会は、準決勝へ駒を進め、静岡に九回表まで五対一とリードしながら、信じられぬ逆転サヨナラ負けとなった。私は呆然と応援席で立ちつくし、どうか夢であってほしいと願いながら、草薙球場から歩いて家まで帰った。一言も口をきかなかつた。

後年、母は、

「あの日、お前が玄関から入ってきたとき、目に涙をいっぱい流していたよ」

と笑ったが、それほど純心無垢な少年だったのだろうか。

母校の野球へのおもいは、今も熱い。また、じっとしてはいられない夏がくる。船川監督から八木監督へと采配が変わった。八木監督に会ったら、柔道の山下泰裕さんそっくりの、実にいい顔だった。

「生徒たちに、野球をやる幸せを実感させてやりたい、その気持だけで一杯です」

この言や、又よし。前監督の労をねぎらい、新監督に期待しよう。

◇ ◇

山川静夫氏はNHK特別主幹、随筆家。一九三三年静岡市に生まれる。五六年国学院大学文学部卒業。同年NHKに入局。以後「ひるのプレゼント」「お国自慢にしひがし」「思い出のメロデー」の名司会で人気を集める。その間七四年より連続九年「紅白歌合戦」の司会を務めたほか、科学番組「ウルトラアイ」(七八〜八六年)の体当たり司会でNHKの看板アナウンサーとなる。現在、専務理事待遇・特別主幹。

一方、古典芸能に造詣が深く、多くの随筆を発表。主な著書に「綱大夫四季」「歌右衛門の疎開」

「勘三郎の天気」「胸の振子」などがある。

「名手名言」(中央法規出版)にて一九九〇年日本エッセイストクラブ賞受賞。近著「当世やまところ」(日本放送出版協会)も好

回想・随感・近況など

冗句 今昔物語

酒とジョークはヒューマンリレーションの潤滑油とか

50期 大庭 左文
前口上

先日新聞を見ていたら「各の国民性比較」というのが出ていた。平均を二〇〇とすると、日本の場合、勤勉さは二五〇、頭の良さ二二〇とか、まあ思ったより低い数字だが、大国民の襟度として、私はこれは赦すとしてもニーマアへの関心度がなんと日本人はただの二五だった。俄然私は奮起しましたネ。それでお節介ながら日本独特の新旧ニーマアを此処にご紹介させて頂くことにしました。種

評を博しており、これらの著書には静岡での逸話も散見される。

高校野球に深い愛着をもち、夏の県大会には毎年寸暇をさいて西下し静岡高への声援を続けている。

敬服します。我々ブン屋はついで行くのがやっとなです。総理!! 健康の秘訣を教えてください」

「キミ達とワシじゃあ、ハナッから食い物が違う、ワシは毎日人を食って生きている。だから丈夫なんだ。さて急いで次を食い始めないと明日も又食い残しが出るぞ」

4、飛行機の中で
「ステイアデスさん、新聞は何が残っていますか」
「日経と日刊工業だけです」
「そりゃ又固い物ばかりネ」
「イイエ、固いと思つたらよくもんでから御使い下さい」

5、人間の経節
日本橋のあたりを歩いていたら「にんげんの経節、血合い抜きも有り」という広告が目についた。流石に私もギョッ、実は内心案じてはいたがグルメもついに此処迄来たかッ?!と慨嘆した。だがよく見れば広告が私の見間違ひ、それは「にんげん」でなく「にんべん」の経節でしした。

注IIにんべんは屋号、これはコマーシャルではありません。念のため……。

6、コンピューター異聞
戦前はコンピューターが無かつた。だから御承知の通り何でも算盤と計算機で集計した。それで関

3、昔の傑作の三 健康の秘訣
当時の新聞記者の連中が吉田首相に対して「総理のタフさのには

東大震災の時も、深川の空襲の時も、正確な死者の数が今だに判らない由。だから防災の日ともなると、当時の現場に坊さん達が集まり、死者の数を数えるのであ

る。ナンマンダー、ナンマンダーとね、番町血屋敷のお菊さん曰く「遅いけど私の方が正確よ」

7、梅雨時生まれの人
「西洋では六月生まれの人は一生幸運が付きまとう」と言っているが

「そう言えば、誕生日の歌は「ハービー・ベース・デューツ」だったな」

8、人間の肺は二ヶである
「人間の肺の数は二ヶである」という事を発見したのは誰か知っていますか」

「はい、それは彼の有名な明治の文豪夏目漱石先生です」

「ピンポンパン、その通りです。先生の作品の中に有りますネ、」

「吾が肺は二ヶである」とネ」

反省「マジな方も読んでくださっている。余り調子に乗り過ぎない事、月夜の晩ばかりでないから……」

9、シスコの自殺者
サンフランシスコのベイブリッジ、ゴールデンゲイトは向こうでも今だに自殺の名所だそう。だ

が自殺者でも几張面な日本人は脱いだ履物を揃えてから飛び込む、これ則ちはない人生の意とか、アメリカさんは靴を履いたまま飛び込む、これ則ち靴着(クツジヨクと読んで下さい)の人生とか、一寸苦しい洒落だのご勘弁を。

10、さくら銀行
「あなたが一番好きな銀行は……」
「はい、さくら銀行です」
「シテ、又あなたは」

「はい、さくら銀行のサクラです」
なんと又のどかな会話だろう事。

11、医者之余る時代到来
ノストラダムスとかいう大予言者の説ではないが、これから十年も経つと確実に「医者余り時代」がやって来る。今新聞の広告やチラシと言え、不動産屋とスーパ

ーだが先ざきその頃は、新聞を掲げると医者の広告で一杯となるそうかな? ついでにその頃のチラシの文句を紹介して置こう。

◎当院の看護婦はオール女子大出、美人グラマー揃いです。此のチラシ御持参の方に限り、花金はオールナイト密着サービス。

◎当院の薬は正に激安!! しかもおまけに診察券三枚でハワイに御招待。

後書き 笑わん殿下
本文をお読み頂いた方々の御感

想ですが、如何だったでしょうかと？「一つもオカシク無かった」という御方がおられたら遠慮なくお申し出下さい。良い病院を御紹介します。いえ本当です。但し密着サービスの方は今は何んとも……という処であります。

サテ、そもそも本文の冒頭では「ジョークも解らぬ石頭の日本人」と言われ、流石の私も頭さまたす。それでこの様な国辱こそ早速に晴らすべくオトリ刀でペンをとった次第ですが、愛国心の割には以外と非才のせい、終始の駄文、誠に失礼しました。本文はせめて英訳して国連に提訴したい……等とも考えていたのです

が、本文の英訳!!これも又可成りむつかしい事ようです。では最後に英語が駄目なら昨年流行のポルトガル語で御挨拶しましょう。オブリガード(有難う御座居ました)、マテグレーベ(左様奈良)。

以上敬白

静岡の万葉を歩く

(その六)

51期 原崎 郁平

清水市三光町の清水市立第三中学校の校庭に万葉歌碑が立っている。正門を入ってすぐ左側にある。父母が、頭かき撫で

幸く在(あ)れて
いひし言葉(けとは)ぜ 忘れか

静岡静高同窓会会長 鈴木与平氏(44期)急逝さる

三十年の長年にわたり同窓会長として尽力くださった鈴木与平氏は、五月二十三日午後五時三分、急性心不全のため逝去されました。享年八十三歳。

静岡から成城高、京都大へ進まれて昭和十五年鈴与第七代社長に就任されましたが、諸業績によって平成四年三月清水市名

誉市民称号を贈られました。

昭和三十八年、同窓会会長に就任以来、母校および同窓会の発展のため力を尽くされ、関東支部へも常に心を配ってくださいました。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

ねつる

防人丈部稲麻呂

(巻二〇一四三四六)

揮毫者は平尾花笠先生。碑裏の解説は渡辺一雄となっており、昭和四二年五月二十八日に建てられている。大きさは縦九六センチメートル、幅約一七〇センチメートルの石碑である。歌は黒御影石に刻まれ、周囲の縁取りには白御影石が用いられている。揮毫者の平尾花笠先生は清水市在住の著名な書家で、近くの石材店の店主が丹精こめて彫りあげ、その筆勢が

見事に現れている。

この歌碑はこの中学校の創立二十周年を記念して玄関前に建てられたものである。歌碑の背面に次のように記されている。

『万葉集巻二十にあるわが郷土静岡出身の防人丈部稲麻呂(はつせかべいなまる)の短歌である。』

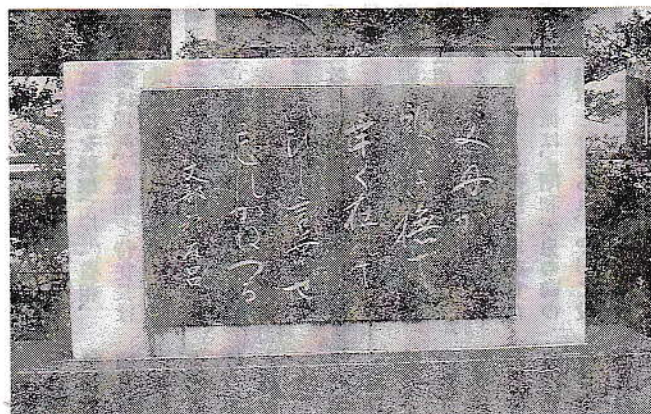
「父母が頭をなでて、わが前途について無事であるようにと、何くれとなく言い聞かされた言葉を忘れることはできない」という意味である。「頭かき撫で」の句に慈愛に満ちたやさしい父母の面影がはっきり写し出されている。「在(あ)れて」は「在れと」の訛りであり、「けとは」は「ことは」のことで昔の駿河の方言である。

清水といえは清水次郎長を思い出す。次郎長は文政三年(一八二〇)正月元日、駿河国有度郡清水町美濃輪(みのわ)の回船問屋の三右衛門の三男に生まれた。生まれた時には長五郎と名付けられたが、その後叔父さんの次郎八の子の長五郎というので次郎長というあだ

名がついた。少年時代から乱暴で喧嘩に明け暮れていた。

二十二歳の時、ある托鉢僧から人相を見られ、あと三年の寿命だと言われて悩む。しかし女房のお網にたしなめられて昔からの知り合いの別の和尚に会い、「お前の了見次第でどのようにも長生きできる、あわてるな」と諭され自分の早合点に気が付く。その後、放埒無頼の暮らしをはじめ、三河の吉良の武一という博打から北辰一刀流を学ぶ。武一は次郎長の素質が抜群であるのを認めた。

次郎長が名を上げたのは大親分同志の喧嘩の仲裁からである。次郎長の叔父である江尻の和田嶋(わだしま)太右衛門と甲州の津向(つむぎ)文吉との間に喧嘩騒ぎが持ち上がった。喧嘩の仲裁人が事をまとめられない時は死ぬしかなかった。やり損じてなぶり殺しになり、一寸刻みの屍体でもどって来た仲裁人を次郎長は幾度も見ていた。次郎長は命を賭けて仲裁に入り見事にまとめた。しかし、次郎長はこれを機会に旅に出て地方を歩き、関東から北陸まで旅している。また、清水湾で旧幕臣七人の屍体を後難を恐れずに引取り、巴川川口で埋葬した時、東京の太



政治の調べに対して堂々と応対し

た。召し捕りに来た山岡鉄太郎はその勇気を褒め、あえて召し捕らず、その後肝胆あい照らす仲となった。明治の世になって次郎長は進んでざんぎり頭となり、これからは外国のことを知らなければならぬと英語を習った。富士山麓の開拓にも力をかしているし、軍神広瀬中佐との親交があったとも伝えられている。

次郎長はイカサマ博打の名人であったが、後年静岡県令が三保で次郎長と歓談した時、砂浜で二個のサイコロを投げ、思うがままの目を出したという。だが、苦難の道中でも、次郎長はイカサマ博打では稼がなかった。それは運をサイコロに託して生きる博徒の仁義に反すと思ったからである。次郎長は明治二十六年六月十二日に清水で没した。

二・二六事件の朝

(回想記)

54期 鈴木 猛

あれは確か静岡中学二年生の後半の時であったように思う。

昭和十一年二月二十六日この朝静岡中学の校庭は、何十年ぶりの量の積雪で一面の銀世界となつた。

私達中学二年四組の生徒は大は

しゃで、雪だるまやスノーボーを作ったりしたが、生徒の中には不逞の輩がいて、教室に教官が入った途端、頭上から雪の塊が落ちる仕掛を巧みに作る者がいた。早速、見事この仕掛にひっかかった教官がいた。最も口うるさい教官の一人であった細矢先生(細矢致一さん。通称チイチ。数学)が第一号の被害者であった。

ところが、この小事件の後仕末が大変な仕儀となった。怒り心頭に発した細矢教官は刻々に職員室に引き揚げ、教室担当の教官、本告さん(本告亮一さん。綽名はモトキチさん。国語)に事情を話したものだと思われる(教官名の誤認があれば御容赦下さい)。

この本告さんがやおら教室に現われ、誰が仕掛人かの尋問が始まった。勿論誰が仕掛けたかはお互いに知ってはいたが、級長、副級長をはじめクラスの全員が知らぬ存ぜぬの一点張り、遂に犯人探しは迷宮入りとなった。その代り級長以下全員が暫しタチンボの懲罰を受ける破目となった。

閑話休題。この日はかの二・二六事件の勃発した当日である。

この日早朝五時、第一師団第一連隊及び第三連隊、近衛連隊など所属の青年将校を中心とする将兵

約一四〇〇名が、いわゆる君側の奸臣を打倒する目的で騒起し、「各所に重臣を襲撃、内府、首相、教育総監は即死、蔵相と侍従長は重傷」(二月二十七日付朝日新聞朝刊見だし)という大事件を惹き起した。その後、詳報が伝わるにつれ、斎藤実内大臣一即死、岡田啓介総理一実弟が身替りとなって即死、牧野伸顯前内大臣一湯河原伊藤屋旅館の裏山に難を逃れて安泰、鈴木貫太郎侍従長一重傷、高橋是清蔵相一重傷後間もなく死亡、であることが判明した。

結論として、この騒乱を起した青年将校一派は、昭和天皇の鶴の一声で賊軍と称せられ、やがて投降することとなった。

昭和天皇さんといえ、これはある先輩から聞いた話であるが、昭和天皇の三聖断といわれているように、二・二六事件のご聖断、終戦のご聖断などで、国家の危急存亡に係わる大事のときには、昭和天皇ご自身がご決断なされたことである。

とりわけ天皇の怒りに触れたのは、高橋蔵相を死に至らしめたことであったという。

周知のように明治三十七・八年の日露戦争の末期には日本の戦費は底をつき、戦局も日を追って日

本軍には不利になりつつあった。この時、高橋は清さんは渡米して借款を打診したが、アジアの小国日本に金を貸す相手もなく途方にくれたが、幸運にもユダヤ系の資本家モルガン氏から融資を受け、軍費調達には事なきをえたと伝え聞いている。

ところで、この事件の第一報は早速職員室に届いたものと思う。

私は偶然、数学担当の教官高原真重さん(ニックネームはマンジュウ)に廊下で逢ったら、「東京で革命がおきた」と一言のたもうた。中学二年の頭脳では革命の意味は充分理解できなかったが、この言葉が私の耳には極めて新鮮に聞えたものと思われる。五十七年経った今でも小声で耳元に囁いた革命という文字を忘れ去ることができない。

この事件後日本は俄に軍部の台頭するところとなり、やがて、翌十二年の日中戦争、十六年の太平洋戦争へと苦難の途を自ら辿ることとなったのである。

静岡妄言

55期 武井 富夫

このごろ所用があつて静岡を訪れることが多い。関東に來ている仲間の中では多い方だろう。何し

る親戚もあるし、昔の仲間も数多くいるし、それに距離からいっても充分日帰りができるのだから。

しかしただ訪れる機会が多いというだけでは何もならない。それも少年の日の昔を懐かしんでいるだけではどうしようもないといわれても仕方がない。森鷗外は「妄想」の中で、「故郷は恋しい。美しい、懐かしい……」といっておきながら「Nostalgiaは人生の苦痛の余り深いものではない」といつている。われわれは齢をいくら重ねても前を向いて歩いて行かざるを得ないし、ただ漫然と昔はよかった、などと懐しんでいる閑はない筈である。

だいたいわれわれが抱えている「静岡」という概念だとして考えてみればいい加減なものである。安倍川は大河であるが、昔は駿府の町中を縦横に流れており、家康が川筋を西の薬科川と合流させてから駿府の町作りが確定したといえるので、こうした町の形成によって同時に堤防に頼らざるを得なくなり、同時に洪水の危険にさらされるようになったともいえるのである。

今日の静岡という町もそうした土壌の上に築かれてきたといつてよい。このごろ歴史散歩というの

がさかんになって、静岡というところへ登呂遺跡や久能山を考へる向きもあるが、歴史というものはそうした遺跡の断片が無作為に存在するというだけのものではない。いろいろな形で「町」は生き続けてきたのであり、それは断じてわれわれが育ったころの町だけではない。われわれの過去はわれわれの頭の中でしか存在していないのである。——昔はよかった、などと単純にいうべきではなく、昔も今も、よいことはよく、よくないことはよくなかったとはつきりさせるべきだろう。

しかしそうはいってもその静岡の駅頭に立つ度に、いつもつくづく「ああ、帰って来たな」と思うのは何故だろう。私が現在の居住地であるこの横浜に移り住んでからもう四十年になる。静岡の町へは多いとはいっても年に数回訪れるに過ぎない。生活の基盤は既に無くなっているし、町々も新しい装いを繰返して昔の町々ではない。つまり静岡は現在の静岡なのである。しかし、それにも係らずいまなお駅頭に立って帰って来たなと思う。これは何故だろうか。鷗外先生にはわられるかも知れないが、これはまったくどうしようもないことである。ただほっ

とするだけのことである。私はおろかにも少年の日に帰って「竜爪山の木枯に青葉が丘の夏の日に……」とロザむ。静岡時代のあの校歌は実にいいと思う。いつてみればまあそんなところである。

ガイドブックを読むと、静岡はわずかに「東海地方」の一隅に入られていてお定まりの説明しか載せられていない。これは現に住んでいる人には申し訳ないことだが私はこれで満足している。大火と戦災とで大抵のものはなくなっている。先頃こちらの歴史研究会で静岡散策というのをやったが、廻ったのは一通りの名所旧蹟ぐらしいもので、静岡の何を見たのか全くわけのわからないものになってしまっている。幕末期にこの地に栄えた国学、地誌の編纂などにはまったく興味を示さない。まして安倍川の治水の問題、霞土手の効用など、いくら説明してもどうにもならない。

しかしこれは当然のことで、この地に育ったことのない人達の理解とはそんなもので、われわれだって他所に対して示す理解など、まあそんなものである。そういう一人名所旧蹟の羅列ぐらいでその地が解ることなど出来得る筈はないのであるが、ただ次のことははっ

きりといえるだろう。つまりわれわれの育った町にはいまでもわれわれと関係なく生き続けているのだ、と。真実を見なければならぬ。ドン・キホーテに倣っていえば、「観念は化け物、事実は真実の敵」とでもいったらいいのだから。

近藤陽三監督の東京農大が ホッケ―全日本選手権を制す

59期 奥沢 徹

全日本男子ホッケ―選手権大会最終日は、昨年11月29日慶大日吉ホッケ―場で決勝を行い、東京農大が国内50連勝中だった表示灯を降して12年ぶり2度目の優勝を果たし、表示灯の同大会4連覇を阻止した。

▽決勝

東農大 3 (2-1-0) 2 表示灯

前日の予選最終戦を終了間際に逆転勝ちして波に乗る東農大が、4人の全日本代表を擁する表示灯を若さで突き破った。速い攻めで相手陣内に入り込み前半3分、高畑がセンターリングを合わせ先制。

さらに同20分には前日の試合中にバックを当てて額を6針縫うけがを負った竹島がブッシュシュートで2点目を奪いムードに乗った。

「あくまで胸を借りるチャレンジャーとして臨んだ。夢のような勝ち方ですよ」と近藤監督はうつつらと涙を浮かべて感無量の表情。(以上新聞記事より)

近藤君は昭和五十一年、当ホッケ―部監督になってからちょうど5年目にして日本一を勝ちとり、今回2度目の全日本を制したことになるが、その間大変なご苦労と努力をされたことと思う。同期生として心よりおめでとうを言いたい。

私は昨年の決勝はNHKテレビで観戦し、彼の真剣な姿を拝見、アナウンサーは度々彼を老監督と紹介していたが、彼とは静岡時代戦況がきびしくなった四年生から五年生にかけて陸上競技部初め他の運動部が廃部となり「戦場運動部」なる競技が発足した頃、お互いに青春をかけて県大会優勝を目指して連日足にゲートルを巻き銃を背負ってグラウンドで練習をした仲である。これからも日本のホッケ―界のために大いにがんばって、是非日本一の座を取り続けて欲しいものである。

床並 繁先生のこと

60期 安田 正之

先生が亡くなりましたのは昭和五十七年だから、もう十年あまり前

のことになってしまった。当時私は、静岡時代の先生の思い出のいくつかを静岡高同窓会報(六十号、昭和五十八年五月)に書かせてもらったが、十年たった今も、先生の面影は相変わらず身近にある。先日ようやく機会があり、久しぶりに博多の御宅へ伺って奥様にお目にかかり、仏壇にご無沙汰のお詫びをして来た。

先生は戦後間もなく静岡を去って、母校の旧制七高の教授になられ、やがて九大に移られた。私も勤め先の関係で大分在住が長かったから、博多のお宅には何回かお邪魔しているが、先日伺った時、玄関左手の洋間はピアノの位置からソファの向きまで、亡くなられた直後と全く変わっていないかった。壁に掛けられた先生の遺影も以前と全く同じ位置から静かに私を見ておられた。

遺影は何時見ても若々しい。

「好きなものでしたからお茶がわりに」と奥様が出してくださったビールを頂きながら、私はその昔博多の街角で先生と落ち合った時のことを思い出していた。昭和三十年代だったと思う。約束の場所で行くと、二、三人の詰襟の学生服に混って背広姿が一人、道の向うに理れたがどうも先生で

はない。おかしいなと思ってよく見たら、詰襟の方の一人が先生で、背広姿は先生と服を交換した学生だった。先生はもうかなり出来上がっておられ「どうじゃ、分らんじゃろが」と、その学生と肩を組んで上機嫌だった。たしかに二人に年令の差はあまり感じられなかった。

先生はまたスポーツ万能であった。黄金時代の東大のレギュラーだったというバスケットはもちろん、テニス、バドミントン、バレー、山登りと、晩年まで学生と一緒に楽しまれたらしい。「学生たちの中には体育の先生だと思っていた者もいたようだ」と何かに書いておられたそうである。

私達夫婦がまだ結婚して間もなく、大分の田舎で間借り生活をしていた頃のことであった。「今から行く」というご連絡である。汽車の着く時刻を見はからって最寄の駅まで出てみたが先生は下りて来られない。汽車はどうせ一時間に一本ぐらいいかない所だったから一旦家に帰ってみたら、何と先生はもう上り口の線先で、ステテコ姿で一杯やっておられた。開けばテニスですっかり遅くなったので、そのまま服も着替えずタクシ

ーを飛ばして来たといわれる。私

の恩師との初対面ということで、かなり緊張していた家内の前に、突然下着姿の先生が汗を拭き拭き出現されたというわけだった。

九大を定年退官された年の夏、たまたま富山に住んでいた私は先生を立山に御案内した。前夜は峡谷の温泉で、地酒が美味いと延々と手酌をかさね、例の通り「岳南健児」も「北辰斜め(七高寮歌)」も「黒田節」も「五木の守子歌」も、全部済まされた先生だったが翌日山ではシャキッとして流石に敏捷、軽やかな身のこなしであった。好天に小手をかざして稜線から遙かな富士を望み、眼鏡を外して傍らの高山植物に見入っておられたお姿が今でも臉の底に残っている。あれから僅か三年でお別れするなど夢にも思えないことだった。

最後に入院された時も先生は次の学期に備えて、その頃教えておられた筑紫女学園短大の期末試験の答案を、ベッドで採点しようとして行かれたと聞いている。しかし答案用紙に先生の筆跡は、とうとう何も残らなかった。

平成元年三月、先生の七回忌を契機にして文集「追悼 床並繁先生」が、同僚後輩の先生方の手で編集された。静岡中学の関係から

は岡本正信君が一文を寄せられ、私も以前同窓会報に書いたものの焼き直しのような拙稿を載せた。剣道部だった岡本君はその中で、戦時中に医学を志すのはどうかと思いつつたとき、先生から「武事のみが強いと言うことではない。医を学ぶことは時に剣を帯びるに勝る」と励まされたこと述べ、まことに遭い難い師に恵まれたと追憶している。

追悼集の中ではまた、学園紛争が長期化した頃の九大教養部学生委員会委員長としての先生のこと、何人もの後輩の先生方によって回想されている。

当時学生委員室は、紛争処理の実働部隊であった若手の方々の溜り場だったらしい。そしてその中心に先生が座っておられた。先生はミーティングのあと必ず焼酎のお湯割りを皆に注ぎ、部屋には駄弁りの花が咲いた。思い出の中には、辛い時期をとともに過した戦友会的な要素も多少はあるかも知れない。しかしこれだけ多くの方々が「床並委員会」の雰囲気を楽しかったことや、チームワークの素晴らしかったことを心から懐かしんでおられるのは、やはり委員長であられた先生の、温かく飾り気のないお人柄と、不偏の識見があ

ったればこそと思うのである。亡くなられたあと先生は、生前のご功績によって勲二等瑞宝章正四位を贈られた。「二等」というのは少ないそうですよ」と奥様は素直に喜んでおられたし、ご専門の英語・英文学のお仕事については私は全くの門外漢である。だがやっぱり私には、先生が一升瓶と一緒に今度は勲章までぶら下げて、奥の部屋から「こげんもん、もろた」とあの少しはにんだような笑顔で出てこられそうな気がした。「正何位」とかいうのも、どうも先生にはそぐわない。

—— あとがき ——

床並繁先生は昭和十五年から昭和十八年まで、戦時下の静中で英語を教えられた。この間に籠球部を設立指導されて、短期間のうちに県大会で優勝させたり、校友会誌々上で堂々と、当時の潮流だった外来スポーツの抑圧を、偏狭盲目的な愛国主義だときびしく批判されたりした。これらのことは、「静中静高百年史」に記載されている。また軍事万能の中で一貫して文の道の大切さを説かれたのは、岡本君も書かれている通りである。

先生のまえでは横暴な配属将校への怨嗟も、目立つ女学生達の噂も平気だった。ご在任と時を共にして、あの狂おしい時代に、勇氣ある自由不偏の精神を教えて頂けたことは本当に幸せであった。

荒廃した

母校を救った神様

64期 渡辺 素夫

I、荒廃した静中

敗戦を迎えて授業再開となった時の静岡中学は、昭和20年6月の静岡空襲によって長谷町の校舎は焼失していたが、他の焼けた市内の中等学校に比較すれば、まだ幸いであった。というのは私達昭和18年入学で敗戦時中学三年生であった64期は、小鹿の三菱重工業に動員中であつた上級生達と違い、登呂の住友金属静岡工場青年学校で工員見習として研修中であつたので、青年学校をそのまま静岡中学として借用出来たからである。

一応学校としての体裁は整っていたから勉強に精出すことが出来たのであるが、一年足らずのうちに漏電で出火し校舎を焼失してしまつてから苦難の道は始まつた。焼け残つた工場の建物に机と椅子を持ち込んで、土のままの地面に置いて埃の中での授業となつた上に、各学年を二つの大集団に分け、学年別の午前・午後の二部授

業となった。

このように物理的に学校生活は大変困難を極めた上に、食糧事情が悪く、教師も生徒も食うや食わずの栄養失調状態であった。大半の生徒は焼け出されたため、親類縁者の家に居候している汽車通か焼跡のバラック小屋に居住している者等、乞食同然の生活であった。

しかし精神面では明るかった。戦争中の言論弾圧の重くするしから解放されて生徒達は自由を満喫していた。自由主義・民主主義・共產主義等の思想は洪水となって押寄せていたが、生徒達は映画館に長蛇の列をなして並び、焼跡の闇市で古典の古本を求め、仙花紙と言われた質の悪い紙質の新本で、太宰治や坂口安吾・舟橋聖一・織田作之助の小説を貪り読んだものである。

一方、進駐軍と呼ばれたアメリカ占領軍の手による国家主義者・軍国主義者の追放は、官界・政界・財界に亘って行われていたが、やがて教育界にも及んで来た。静岡教育界に当時「高橋旋風」という追放の嵐が吹きすさんだ。高橋というのは、慶応普通部から転校してきた高橋太郎（同じ64期生で旧静岡を経て東大卒）という男の

オヤジで、戦前アメリカで帽子屋を営業していたが日米交換船で日本に帰国、戦後進駐軍の通訳をやっていたが、教育界の追放審査人の強力メンバーになっていた。高橋氏の意見具申で、「進駐軍の命により、貴殿は追放」ということが決定されていたのである。

高橋君のオヤジは、米国将校とジープに同乗し、静中にもやって来た。授業の席が隣である私は、高橋君に「間処校長は当然追放だろうね。」と聞いたたら、「いい一番に追放なんだが、私もオヤジも校長に泣いて頼まれ困っている。なんとか米軍を誤魔化して追放は免れる。体操の宮林ビービは追放だ。」と秘事を明かされ驚いた。間処校長といえは、戦争中朝礼や祝祭日等あらゆる機会に、国家主義、軍国主義を生徒に鼓吹し、「吾、宮城の肉壁たらん。」と本土決戦を説いてやまなかつた人物である。その演説は、ヒットラーや東条英機もはだして逃げるといった自己陶醉型のアジテーターであった。

校長が追放を免れるといった話は、全校生徒に拡がり、生徒達は真実とは何ぞやと疑問を感じていたところに、追打ちを掛ける驚天動地のことが持ちあがった。あれ

ほど演説好きだった校長は、敗戦後は時局については貝の様に黙っていたのが、或る日青年学校の校庭に集められた私達の前に、ソフトをかぶり背広姿の間処氏が登場したのである。戦争中のカーキ色の服に戦闘帽の姿の校長しか知らなかった私達はまずこれにビックリしたが、更に本人から次の様な言葉が発せられた。「私は以前からスタディ(Study)、スリープ(Sleep)、スポーツ(Sport)を言ってきたがこれが教育の三大原則である。これをスリーエス(3S)という。」そしてあとは、長々と私くらい自由を考え民主主義を考えてきた者はいない、と言いつ出したのである。これほど純真な少年の気持ち踏みにじる話はない。

変節漢、厚顔無恥、ベテナ師、インチキ野郎、オポチュニスト、便乗主義者など、あらゆる悪口雑言を放つても、あの時の裏切られた少年達の物悲しい、恥かしい空虚の日のことを忘れることは出来ない。62歳のオジイさんとなった今日でも、あの日の校長を考えるに怒りと悲しみで私の腸は煮えくりかえる。人間出処進退は大事である。

明治維新後、福澤諭吉は「瘦せ我慢の説」を書いて、勝海舟、榎

本武揚、山岡鉄舟等徳川幕府高官が明治新政府に尾を振って出仕したことを攻撃した。江戸を戦火から救った勝海舟に対しては、三河以来の武士道の精神を失った罪の方が大きいと手厳しく批判している。「封建制度は親の仇でござる」と言った進取開明の思想家であったにも拘らず、福澤は中津の下級武士から幕府翻訳方に登用されただけで、徳川家には一宿一飯の恩義ありというわけで、新政府の再三再四の出仕の懇請にも動じなかった。人間にとって大事なことは、恥を知ることだと廉恥の精神を説いた福澤が若し戦後迄存命であつて、同じ教育者である間処氏の言動を見聞したら、何んと言ったであろうか。

この間処氏の君子豹変は、生徒に怒りを爆発させたばかりか、心ある教師達も学校を去って行った。静岡中名物教師の一人、数学物理を教えていた家永ブーカン氏は校長を批判、大喧嘩して故郷に帰った。一応、狸校長間処氏はブーカンに浜松一中教頭に転動というところで動かそうとしたのであるが、「俺は静岡以外の教師を考えたことはない。」と生徒に別れも告げず、「故郷有田で焼物屋をやる。」と郷里に旅立った。

本部の同窓会報で後輩の方で、ドナタかが、「ブーカンとは別れの言葉を書いて去った。」と書いているのは、その方の記憶違いである。ブーカンは何の挨拶もなく、近所の在校生に上述のことを話して去ったのです。日頃から、俗物は大嫌いだと言って、夏目漱石の坊ちゃんを気取っていたブーカンには、間処氏の変節ぶりは何んとも許せなかった。「モンさん」という松田先生も辞職して去った。城内中学の校章が3Sなのは、オペンチャラの飯田先生(旧性金沢)が、この間処校長の言葉からヒントを得て城内中学初代校長になった時決めたのであるが、同校出身の芥川賞作家の三木卓氏もご存知なかったであろう。

ともあれ、間処校長辞めるといふ声を生徒会で主張したのは、純情男安田君(66期・伊豆大仁カントリークラブ常務)であるが、生徒会を牛耳っていた63期のH氏、O氏、K氏と増田政雄君(64期)に押えこまれてしまった。世の中の廻りあわせは不思議なものである。この生徒会のボスであった反動分子のOや増田君が後年日共の黨員となって活躍し、安田君が日本軽金属の全盛時代の安田社長のお曹子であることが判明した時は

ちょっと感無量であった。

II、野球の神様登場

物心ともに荒廃した静中に、希望を与えてくれなかつた生徒達が熱望したのは、野球部の活躍であった。皆様ご存知の通り、戦前の

静中の野球部は起伏が激しく、大正15年の上野、福島のパッテリで甲子園全国制覇を遂げたのを頂点に、大正末期から昭和一桁までは、静岡中学は県下の王者であったが、昭和十年代になると、県下の野球界は島田商業黄金時代であった。15年夏の島商対海草中学(和歌山県)で、島商の一言投手(東急)は海草の真田投手(松竹ロビンス)に2対1で涙を吞んだものの、この決勝戦は静岡県下を湧かせた。

静岡県の野球は島商一点ばかりでこれに対抗出来たのは、静岡のみであった。静岡と言えは野球の弱い学校の代名詞であった。親爺から、静中に鈴木芳太郎(48期)という名投手と鈴木吉朗名三塁手(49期)がいて、甲子園での活躍を聞いても到底信ずることが出来なかった。鈴木芳太郎氏は専修大学へ進み、一年の時から投げ、東都大

いたが、静岡人にとっては野球の神様であった。

戦後の昭和21年、混乱のなかに再開された野球大会に、私たちが在校生は異常な迄の期待を持った。

吉田和男氏(63期)を投手に県予選に臨んだが、焼津水産にコールド勝ちしたものの、準々決勝では掛川中学に7対2で敗退した。吉田氏は卒業後、横浜高商(現横浜国大経済)に進み、全国高専大会で優勝した人であったから、実力は相当なものであったろうが、この掛中戦ではノーコン。四球を連発、さればと真中に投げて快打を打たれるし三塁遊撃の守備もひどく、完敗であった。

昭和22年には、上野精三氏が慶大の監督に就任。22年春と秋の六大学リーグ戦に優勝したから野球好きの静岡市民は黙ってはいられない。「上野さんは慶大の監督だから仕方ない。鈴木芳太郎氏は是非とも静岡の監督に。」という声は満ち満ちた。プロアマの関係で就任に支障があった鈴木氏が、関係先の了解をとりつけ監督に出馬。

さあ、いよいよ神様の登場である。22年夏は、64期の佐々木投手で臨んだが、準々決勝で6対2、富士中の前に敗退した。「神様が監

督でも、やはり静中の野球は駄目か。」すぐ結果を求めるのは、静岡人の悪い癖であるが、神様は野球部を解散させ、森山君(66期)を投手に指名し、新メンバーを結成した。

戦後の焼跡鬧市時代の県野球界は沼津中学の天下であった。森山投手は、21年には二塁手、22年には遊撃手として予選に出場しその守備力打撃センスの良さは、ピカ一であった。23年に静中は学制改革で静岡一高(ちなみに県立高女は静岡二高)となったが、森山投手の率いる新チームは静岡戦で大原投手(22年県優勝投手)を打ち砕いて6対0で完封。春の県スポーッ祭では雲の上のチームと思った沼中こと沼津一高(現沼津東高)に1対0と勝利を収めたから、在校生はもとより市民の熱い期待は高まった。悲願の甲子園出場である。神様は、連日自らマウンドに立って打撃投手を勧めコーチした。

校舎は、私たちが中学四年の三学期には三菱に移っていたが、中学五年の途中からは、三十四連隊の兵舎を借りていたもので、野球部のこの頃のグラウンドは、連隊の教練場跡である。神様は打撃投手を勧めたあとは、選手一人一人の守

備と打撃指導に一生懸命である。その姿はまさに神々しく後光がさして見えたものである。

23年の予選が始まって、草薙球場で静一高のシートノックが開始されると、市民は「芳太郎さん、鈴木さん」と神様に声をかけた。

23年夏の予選は下馬評通り母校は順当に勝ち進んだが、準決勝の三島商業戦で思わぬ苦戦を強いられた。2対0で三島にリードされ、静岡ベンチに重くするし空気が漂っていたのを、一死満塁で堀井君が二塁打を打ち逆転したのである。この六回の逆転打の時、私は三

塁側で見ていたが、一塁側の静岡応援団は狂喜乱舞、お祭り騒ぎとなった。応援団長の成岡君(64期)から応援旗をモギ取る様にして、代わって久保田ダモ氏(63期、故人)がフェンスの上で踊り狂った姿が思い出される。

準決勝に何故固執するかというと、夏の大会は現在の一県一校ではなく当時は山梨県との山静大会の優勝者が条件であったからである。この三島商戦で中尾捕手が傷つき欠場したことも原因し、県決勝戦では沼津に敗れてしまった

が、山静大会では決勝戦で再び顔を合わせ、10対5で雪辱、甲子園出場を決めたのである。この森山

君の新チームには私たち64期からも漆畑淑男、漆畑茂両君も参加したのであるが、漆畑茂君は二塁手野村君の負傷退場後にこの試合に登場し、再三再四のセカンドゴロを無難に処理した。この試合では、森山君も相手の村田投手(卒業後阪神タイガース)も疲れており、乱打戦であったが、沼津の二塁手は漆畑君と異なり、緊張感からエラーを何通も重ね、監督から怒鳴られ泣き出すシーンがあったから、漆畑君の守備の堅さが光った決勝戦であった。

この勝利での甲子園出場は、昭和7年以来実に十六年ぶりであったから、在校生はもとより同窓生ばかりでなく、市民の喜びも一入であった。「静岡おめでとう。よかったな」といわれ、この夜私たちは多数の市民から声をかけられ祝福を受けたし、出場選手の家の前は黒山の人だかりであった。(何故か、静岡一高おめでとうという声はなかった)。

当時は、マスコミは発達しておらず、勿論スポーツ紙どころか、夕刊も発行されていないが、あの時の市民の喜びの爆発は、田所投手で選抜の全国優勝を果たした静岡商業(27年)の時より凄かったのではなかったらうか。

この後、母校は静岡城内高校、静岡高校と校名は変わったが、この23年山静大会優勝を境にして、昭和一期時代と同じく、甲子園出場の常連校となったのである。最近はまだ弱くなった様であるが、近鉄の赤堀や阪神の山崎、広島島の望月といった好投手も生んでいるから、また朗報を期待してもいいだろう。それにしても、焼跡鬧市時代、物心両面に荒廃しきった母校を救った恩人に、鈴木芳太郎氏という熱血指導の野球の神様がいたことを忘れてはくれない。神様はその後、大昭和製紙を経て東京農大の監督をしていたという噂を聞いている。今も元気だろうか。御存命中に一度お話を聞きたいものである。上野精三さんとは、関東同窓会で、私の方から声をかけたところ、優しく静岡高校の野球部は勿論のこと、慶応の野球部の現状についてもいろいろと有意義なお話を聞くことが出来たのは望外の喜びであったことを付記して、同窓会での神様の講演を是非とも期待している。

あえていわせて

68期 萩原多賀男

女性上位、キャリア・ウーマン、

トラバーヌ、ウーマンリブなど女性に関する新語がどんどん出てくる世の中。女性用コンドームまで出現したというからびっくり。私たち68期生は静中最後の男の集団だった。四年間下級生は全く学制改革で高校一年になって初めて他校からの編入生と共に教人の女の子が入ってきた。静岡最初の男女共学である。

しかし、私はこの女の子たちをどう扱っていいのか、わからなかった。妙になれなれしくするのも気がひけるし、乱暴に扱うわけにもいかない。周囲の目を気にしてテレしてしまうのである。下心があると勘ぐられる(実はその通りなのだが)のが気になって、今だにその種のテレが抜けない。

これが一期後輩になると、中学での男女共学の経験があるのでフランクにつき合えるのだ。とてもうらやましいと思った。と、いうことで同級生の女の子は無視するにしくはないと、女への興味は専ら校外へと向けられていた。

「男女七歳にして席を同じゅうせず」の思想は今だに尾を引いているようだ。

10期ぐらい先輩に、このテレを打ち消そうと無理に乱暴な言動をする人がいた。喫茶店でも行きつ

けのバーでも、若い子を呼ぶのに「おい、女」である。ある時「失礼ね、女なんて呼ばないでよ」とビシヤリとやられた。この先輩、みじんも表情を変えず「ああ、男だったのか。いや失礼」これは例外中の例外である。

年齢のせいなのか、女に対する観察がいやに敏感になったような気がする。その昔は「おなごは夫にも寝顔を見せるな」といわれたものである。電車の中で、いぎたなく眠りこけている女の子を見かけることは珍しくない。前かがみになって長い髪をひざのあたりまで垂らしたり、逆に窓ガラスに頭をつけてあお向けで口をポカンとあけた寝顔を見ると、「こいつを嫁にする奴の面が見てえ」という気になる。

改札口で通路をふさいで気長に乗り越し精算をしているのも、たいてい女のような気がする。自動券売機の前に立ちふさがり、長い間運賃表を見上げているのもオバタリアンだ。どちらも、ちょっと気を効かせてくれれば、後の人に迷惑をかけまいに、と思うのだが頭の中には自分しかないらしい。

いつか春の交通安全運動の時、悪いのは車だけではなく被害者にも責任の一端があるのでは、と写

真シリーズを企画したことがあった。若手の記者が取材してきたものを見ると、自転車で右側を走っている人、子供の手を引いて横断歩道でないところを駆け渡っている人など、ほとんどが女なのにはいささか驚いた。

とくに迫力があつたのは、自転車の前へ女の子、自分も赤ん坊を背負って後ろの荷台へ男の子を乗せてフラフラ運転している母親の写真だった。バランスを崩して倒れたところへトラックでも来たら亭主を残して一家四人全滅だ。

この神経は①ズブトイ②無とん着③勇気がある④フテカサレ——のどれだろうか、ということになった時、ある記者がしたり顔でいったものだ。「神さまは女という生き物にお産という最大の苦痛を与えた代わりに、無神経というものと一緒に与えになったのである」

夜中にふと目覚めて、隣の古女房の寝顔を眺め、「女という生き物は……」と、つくづく思うのである。

お妃教育とテレビ出演

70期 影山 昇

この三月に入って、フジテレビのディレクターから、「おはよう

／ナイスディ」の番組に出演して欲しいとの依頼があった。何でも影山は皇室学にとっても詳しいからであるという。

確かに、これまでに明治天皇と教育に関連した論文三点や、「皇室の学問と教育」についてまとめたものが『皇室の百科事典』(新人物往来社・昭和六十三年刊)に収められているものの、自分が皇室学に詳しい研究者とは考えてみたこともなかっただけに、びっくりしてしまった。

とにかく私の研究をよく調べているものだと感心させられた。

概して日本の皇室は、その権勢に関しては古代と近代にあつては絶対的な力を誇示したものの、中世や近世、ひいては敗戦以降の皇室の存在は、福沢諭吉が『帝室論』の中で指摘しているように、人心を収懐しつつ権威的な気高さを保持したものとなっている。

それは、歴代百二十五代にわたる天皇が、自ら修めた学を基盤に幅広い教養を身につけながら、伝統的な帝王学を創出・継承し、それを発展させながら国と人民の平安のために力をこれまでそそいできたことによる。

それ故にこそ、歴代の天皇には学問や教育で大きな業績を残され

＜お妃教育の内容一覧＞

総時間	美智子さま (97時間)	紀子さま (28時間)	雅子さん (50時間)
日 数	3 カ月	2 カ月	1 カ月半
科目数	14科目	8 科目	8 科目
科 目 内 容	「神宮祭祀」 「宮中祭祀」 「宮中慣習」 「宮中儀礼」 「宮中儀礼及び行事」 「宮内庁制度」 「皇室史」 「憲法」 「礼儀作法」 「お心得」 「英語」 「フランス語」 「和歌」 「習字」	「伊勢神宮・宮中祭祀」 (3) 「宮中儀式・行事」(4) 「皇室制度」(3) 「宮家について」(1) 「憲法」(3) 「日本歴史」(6) 「和歌」(6) 「書道」(2)	「神宮・宮中祭祀」(6) 「宮中の儀式・行事、宮中 儀礼・慣行・作法」(7) 「皇室制度(法制)」(2) 「皇室制度(歴史)」(6) 「憲法・皇室典範」(6) 「日本歴史」(6) 「和歌」(10) 「書道」(7)

備考 美智子さまの科目ごとの時間配当は公表されていない。また () 内の数字は時間数を示している。

た方々が多く存在しているのであ
る。
さればフジテレビから私への依
頼の件は歴代天皇の帝王学を中心
としての情報提供かと思ったとこ
ろが、「三月十二日から小和田雅
子さんのお妃教育が開始されるの

で、大正期以降のお妃教育の歩み
とその意義、具体的には皇太后さ
まの受けられたお妃教育と美智子
さま・紀子さま・雅子さんのお妃
教育の内容の比較などを是非お顔
いしたい」ということであった。
これは難題だと思ったが、とに

かく必要な資料を集めて整理し、
自分なりの考えをまとめてフジテ
レビ局にむかった。

実際の放送場面での私の説明は
実質四分強程度であったであろう
か(三月十二日放送)。

テレビでの発言は、大学での講
義と違い限られた時間の制約の下
で、密度の濃い内容のものを単的
に視聴者にわかり易いことばで話
し理解してもらおうかということが
いかに大切かを思い知らされた。
今回、時間の制約もあって皇太后
さまのお妃教育についてはまった
く触れる機会もなかったが、
美智子さま・紀子さま・雅子さん
がどのような内容のお妃教育を受
けているかは幸い公表されている
ので「お妃教育の内容一覧」を参
照して頂きたい。

この一覧表をみて頂くと、戦後
の時代を見事に反映しつつ、三人
のプリンセスそれぞれが、妃とし
てどのような資質を求められてい
るかがよくうかがえ、興味深いも
のがある。

いずれにしてもご結婚の儀を目
前にして、小和田雅子さんが皇位
継承権第一位の皇太子妃として、
次代の皇室を担う大切な存在であ
るだけに、これまで今上天皇と美
智子さまとが切り開かれてこれら

た「開かれた皇室づくり」を踏ま
え、皇室の存在がより一層国民に
身近なものとなるご努力を二人
して積み重ねて下さることを、心
からお願ひする心情でいっぱい
である。(筆者は東京水産大学教授)

日本人の心のふるさと

74期 藤原 經史

「暑さ寒さも彼岸まで」よく昔か
ら言われた言葉です。春らしく、
桜の花も例年より早く咲きみだ
れ、桜の下で宴会する姿も多く見
うけられました。

自然はすばらしい物を、我々人
間の前に提供してくれまます。

桜の花を見て、春のおとずれを
感じ、自分が日本人であることを
再認識します。

田舎から出て来て三十数年が経
過しているのに、子供の頃桜まつ
りで楽しんだ時の事を、さも昨日
の出来事のように錯覚します。

仕事の関係で静岡・静岡東同
窓会の幹事に欠席がちではあり
ますが、せめてもの罪ほろぼしと
思い、会報に投稿させてもらいま
した。

最近世の中の動き、人間像をみ
ていきますと、日本人の心のふるさ
とは、どこに行ってしまったのか
と……、思いしづみます。

明るい夢、楽しい夢、未来のあ
る夢を、一人一人が創造する時か
と思ひます。

「夫子の道は忠恕なり」と孔子さ
まは言っております。お互い「思
いやり」「やさしさ」が必要かと
思います。今この時、日本人のよ
さ、心のふるさとを思ひうかべた
と思います。

▽お願い△

◎会報は全会員のひろばです。
この会報についてのご意見やご
希望をぜひお寄せください。
◎同期会報告、回想・随想・詩歌
など、会報の原稿をどしどしお
送りください(15字詰めで)。

総合広告代理店

株式会社 アドプロ

代表取締役 朝比奈 正 三 (67期)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階
TEL 03-3254-2171(代表)

同期会など

四三期

平成五年一月二十日、四三会の新年会を三笑亭で開催した。

年度の会合で三笑会の昼食会も百三十回目になり、四三会も九十回目になった。それで各地の幹事に依頼し、電話連絡で全会員の消息と新年会への出欠を確かめることにした。

激動の昭和時代を無事に乗り越えた級友も平成を迎えてからは他界された方々も多く、平成元年には吉見三郎、下出経夫、小杉 一の三君が逝かれた。平成二年には豊島英夫君が、同四年に山家 清、松永 実、安池 章、鷺津恭一の四君が他界されてしまった。

今年に入って一月に杉江善夫君が急逝されてしまった。

四三会の現在数は四十六名で、近況も詳しく判明したが、残念ながら体調を崩されている方々も約半数で、長期入院されている方も三名居られる。各位の御快癒を念願する次第である。

新年会やその他の会合が重なっ

てしまい、関東・関西・中京・その他からの方々は欠席になってしまった。出席予定者も二名体調をくずされ欠席となり、また杉江善夫君は正月を御家族と共に稲取温泉で過ごされておられたが、夕食を咽喉に詰らせてしまい同宿の御子息の親身の御看護にも拘らず逝かれてしまった。誠に残念な出来事であった。謹んで御冥福を祈る。

当日の出席者は最終的に十一名であった。石野長次郎君は卒業以来初めての出席で一同を喜ばせてくれた。また、安池健次郎君も久々に出席された。

開会に当り物故者の御冥福を祈り、黙祷を捧げてから乾杯した。

また、会員が米寿を迎える平成十年には四三会も第百四回目になり、月例三笑会も二百回目になる記念すべき年になるので、これを目標に健康に留意して当日を迎えることを誓った。

三笑亭自慢の「すきやき」に酒量もあがり、岳南健児時代の思い出や波乱の昭和年代から平成の

世を省りみて話に華も咲き、楽しい一日であった。

次回の再会を楽しみに米寿記念を夢見て夕刻散会した。

当日の出席者は、

石野長次郎 磯谷幸一郎

河村 亮 近藤伊佐男

近藤久一郎 高須 彰

滝口亀太郎 堀田利郎

見原三郎 八木友治

安池健次郎 (西沢純三)

五二期

平成五年を迎えたと思ったら、はや桜咲く春最盛りの季節を迎えてしまいました。月日のたつのは早いものだとしみじみ痛感しております。

私等五二期生も卒業してから既に五〇有余年の歳月が過ぎてしまいました。その間あの悲惨な戦争の餌食に、又病い等にて数多くの友を失いました。残された私等も現役第二第三の人生も終り、正月を冥土の旅の一里塚と考えるような心境になり、心淋しさを感じます。昨今ですが、残された人生を明るく力強く楽しく過したいと同期の桜同志、励まし合う意味をこめて、在京五二期会を昨年十一月二十七日開催致しました。

今回は茂呂茂樹、樽松恒右両君



の御世話にて、新宿区市ヶ谷仲之町にある日本輸出入銀行曙会館に

て行われました。都内に未だにこんな閑静な場所があったのかと思うような落ち着いた雰囲気の中、情緒溢れる広過ぎる様な一室で幹事の挨拶、曾根信一君の乾盃の音頭にて、出席者一同お互いの健康を祝い合い、今後の幸を願い酒をくみかわし会は始まりました。

幹事の御苦勞にて十五名と多数の方の参加を得て、今までにない盛大な会となりました。平素は話を交す事も会う事も殆どない私等ですが、会が始まるや、中学時代の悪童に返り、中学時代の裏話やら思い出の数々の話に花が咲きました。が年は争えぬもの何時しか健康の話、病氣体験の話に改めて年月を感じさせられ場面もありました。未だ現役で活躍をしておる方もあり一線を退いた方も皆前向きな意気盛んな、人生まだこれからだという雰囲気を感じとられ

る、誠に有意義な同期会であった
と思います。

最後は例の通り「岳南健児一千
の」校歌を高らかに歌い、お互い
の健康と幸せを誓い合い再会を約
して二〇時半散会致しました。

今回欠席の方も、大いに若返る
事が出来、病いも退散し、明日へ
のエネルギー充電の出来る同期会
ですから、次回には是非御参加下
さり旧交を暖め合いたいと希望し
ます。

当日の出席者は相島秀夫、遠藤
廉、大草知久、川島喜八郎、樽松
恒右、佐藤昌武、曾根信一、田中
貞司、新美弘、西田豊馬、広川聡、
今井健三、松永圭司、茂呂茂樹、
服部雅雄でした。

なお新美弘君の御厚意にて、出
席者全員の写真を載せて戴きます
が、当日欠席の方、名前と顔を全
部一致させる事が出来るかしら？

(服部雅雄)

五三期

今年の総会は四月十七、十八の
両日、熱海のホテル西山で行なっ
た。此所は公立学校共済組合の保
養所で奥野君の設計により、此の
種の建物としては当時始めての鉄
筋コンクリート造りの由、熱海の

繁華街を見下ろす山間の静かな
住宅地で、遅咲きの桜が散り始め
鳥の音が聞えて来るといった良い
環境の場所である。

静岡・関東の共催とあって、奥
野、月見里、仲野、塩田の四名が



二時過ぎから受付を始める。三々
五々到着する中に遠来の小島、松
永(小田)両君の元気な姿や、療
養中と聞いた勝又君が杖を曳きつ
つも夫人と共に笑顔で現れた時に
は歓声が挙った。三枝君は今朝腰

を痛めた由で近く

の所記念病院の事
務長さんが挨拶に
見えてビール四十
本代理出席との
事、差入れ有難く
頂戴する。五時頃
にはひさし一人未
着とて、彼は中学
でも遅刻してプー
カン先生に出席簿
で叩かれた等と噂
(悪口?)をして
居ると、悠然と現
れて大笑い。これ
で司馬君が都合で
後になる以外全員
三十名が揃った。
一同入浴の後、
六時半記念撮影に
引続き総会を開
き代表清水四麻夫

君の挨拶、次いで
この一年に亡くな
った水野尚、谷静
夫、中原孝博の三

兄を始め先人諸兄の御霊に黙祷。
海野君から会計報告、仲野君の監
査報告の後、新会計幹事芹沢君の
挨拶で会務を終了。大石君の首頭
で乾杯、宴に入る。

何時もの通りガヤガヤと歓談、
食い且飲む。お料理の品数が多く

て食卓の中が広いので二人の席に
三人座りかけて従業員さんに追い
出される人があったり、お酒は差
入れもあって飲み放題、大いに満
足であった。話の味が健康談義
になるのは最近の傾向だがこれも
止むを得ない所、昨年切腹の大石
君は多少痩せて胡座をかくと尾骶
骨が痛い等と言っているが仲々元
氣である。大高君は膝を痛めた由
で少し不自由の様であった。他の
諸君はまだ相当なものでお開きに
なってもビール瓶を提げて部屋で
二次会という猛者連も居た。

十八日は五時頃から朝湯、七時
半から朝食、ビールを必要とする
仲間も結構あって心強い限り。昨
夜到着した司馬君の挨拶や記念写
真の配布等の後、来年を約して八
時半頃解散した。

(月見里得郎)

写真前列左より、長嶋夫人、新村
夫人、靱矢、小嶋、松永、勝又、
勝又夫人、香林、
第二列左より、長嶋、新村、塩田

新東京印刷株式会社

代表取締役 梶原由三 (67期)

東京都中央区八丁堀2-1-7 神鋼ビル

TEL 03-3553-8981(代表)

富士通電子デバイス特約店・OA機器販売

東海デバイス株式会社

(旧社名 東海電気工業株式会社)

顧問 清水照彦 (61期)

本社 東京都目黒区目黒4-6-33

TEL03-3791-1181(代) FAX03-3715-1558

夫人、塩田、大高、海野、松前夫人
第三列左より、福地、市川、桜井

松前、望月(芳)、芹沢、月見里
後列左より、志田、仲野、清水(知)
奥野、大石、園田、小宮、清水(四)
(司馬未着)

六〇期

静中六〇期会は四月十七日、静岡市常磐町の求友亭で開かれた。このところ毎年一回、こゝ求友亭での開催が恒例となっている。

出席者は、今年も東は東京・千葉から、西は大阪からと、この日の会合を楽しみに馳せ参じ、地元とあわせて総勢五十六名となった。総会は定刻四時に開催され、まず記念写真の撮影、シャッターをきるのは、プロ顔負けの腕をもつ有田克己君で、作品の出来上りが楽しみである。

つづいて今年から新しく幹事を引受けてくれた阿部昭一君から当会の経緯、今後の運営等について詳細な説明・報告がされた。前幹事森迪也君とともに準備・運営について、地元としてご苦勞のあったことと感謝申し上げたい。

次いで、鬼籍に入られた方々に一分間の黙祷が行われた。昨春以降亡くなられた方は、亀井市郎・

花見正司の両君、物故者総数は四十四名となり、世代的にみて死亡率が高いのではないかとと思われる。やはり青春を戦中・戦後の激変する世相にもみぬかれた苦難の結果が現われているのではないかと感じられ、お互い健康には注意しようと言語合った。

新幹事さん、つい同期会会長で代表幹事の才茂啓英君の挨拶がぬけているのに気づき、これはハブニングと一同爆笑のうち、議事をもととして会長挨拶が行なわれた。「どこでも同じことではあるが、

回数を重ねるにしたがい同期会への出席の顔ぶれも固定化してくるものだ。高齢化に伴い病氣等の理由で欠席する人もいるが、なにより同期会へ出席することが健康の維持・増進につながる秘訣故に、今後一人でも多く出席していただき本会を盛大にしていきたい」と彼一流の静岡なまりの入った気さくな語り口で話題豊富。更に、才茂会長から静中の先輩原田昇左右衆議院議員の秘書をしている同期で実弟の原田龍二君が紹介され、挨拶をされた。

森君の音頭で、一同乾杯して開宴。卒業以来の再会という人もあり、あちらこちらに話の輪が咲き揃い、いつしか心はあの静中時代

にもどり、時間のたつのも忘れて旧交を暖め合った。静中六十期生の卒業は昭和二十年の春、大東亜戦争終戦の年にあたると。したがって、今年が四十八周年となる。再来年は、記念すべき五十周年にあたるので、アルコールのボルテージが上るにつれ、来年は熱海一泊で、また五十周年は夫婦同伴でサイパンあたりにしたらと威勢のよい提案までとびだした。

第一、続いて校歌を合唱し、来年の再会を誓い合いながら散会した。久しぶりに故郷の風と訛りを満喫し、何歳か若返ったような楽しい一夜だった。(鈴木光男)

六四期

四月二日、春のゴルフ大会を開催。今迄十五回行なっているが何故か一回も天候又は他の事情による中止がなかった。東京出発時には雨でも、スタート時には、晴れたり、プレー途中で小雨という

事は時としてあったが結果として運が良かったということだろう。

今年はず報によれば一日中大雨という事だった。我々還暦を二年も過ぎた者にとって、若い時の様に何がなんでもやらねばならぬ「ゴルフ」ではなく、降雨の時は健康のため中止して、ゆっくり酒でも飲みながら旧交を温めるのも一案と、小田

急西富士ゴルフ倶楽部に到着。八時三〇分の集合時には大半が元気な顔を見せてくれた。コーヒーを飲みながら、翌日は開催するかどうかと皆の意



見を聞いた所、外を見ながら殆ど降っていないから、プレーをしようという事だった。昼食事に又午後には如何にするか相談するという事でスタートした。

案ずるよりも熱気に負けて、雨もあがり薄日が射して、午前中無事通過、佐野旭君がハーフ四四で廻っているの、このまゝでは帰れないと発言あり、又神谷武男君もスタートホールで今迄一回もバーをとった事がないのにバープレーをし、ハーフ四四オーバー、この調子なら優勝、帰るなんてとんでもない。スタート時の沈滞ムードは、アルコールの勢いもあり吹き飛んでしまった。

断続的には降ったが一人の故障もなく無事ホールアウトした。今回東京勢としては中学卒業後四五年振りの再会が二人も居り、年々同期の友の交流が出来ることは喜ばしい限りだ。鈴木高保君の乾杯音頭でパーティいは始まり、漆畑茂君の七十五歳迄ゴルフをして楽しみたいとの発言あり。優勝は第一回に二位になって以来十三年振りに念願の楯を手に入れてニコニコ、これが欲しかったと絶句した増田誠男君、二位は常連の伊藤剛君。特筆すべきはゴルフ練習場勤務の新井彰君がメーカーになった

こと、ブービーは石原良昭君。大石次男先輩始め、永田進一、渡辺素夫、漆畑輝夫、渡辺宏一、風間政彦君等十七名の多きを見た。残念ながら岩本吉雄、浅井幹夫両君は病氣のため欠席。秋の大会前夜に熱海に集まり大いに歓談したいと山本和彦君の提案があり、毎年村上君を始め何人かが出席して好評との事なので本年はもう少し多くが参加しようとして約束しあった。毎年七月七日の同期会に元氣な姿を見せてくれた静岡商業の大原規夫君が過日急逝された。つゝしんで御冥福を祈る次第。

関東地区在住の諸兄、足腰丈夫な間には是非同期会へ元氣な顔を見せてください。(野澤正憲)

哀悼

小河直人君を悼む

西沢 純三

四十三回卒業の小河直人君は永らく自宅で御療養中であつたが、敏子夫人、御子息方の親身の看護にも拘らず二月四日逝去された。八十有余年の旧友と幽明境を異にすることは誠に悲哀の極みである。謹んで御冥福を祈る。

御葬儀はお近くの桂林寺でしめやかに取り行われ、講談社関係者やキングレコード株式会社その他関連会社関係者、友人、知人数が参列されてしめやかに取り行われた。級友も嶋田富治雄、倉沢栄吉、三好由三郎、柳沢保雄、西沢が参列して謹んでお見送りした。

私は幼少の時から旧友でお互いに静岡市の鷹匠町で育った。水落町にあった同仁教会の日曜学校へ行ったり、城内尋常高等小学校へ入学してからは横内橋を渡って日本赤十字社の前を通り、当時の監獄の高い煉瓦塀に沿った内堀通りを通学した。

静岡中学にはこの学校から十五名揃って入学することができた。それから鷹匠町から水落町を通って外堀通りを草深町方向に通った。帰宅の時は友人等と誘い合つて時々長谷通りから熊野神社、練兵場あたりで遊んだりした。清水公園の裏山や浅間神社の裏山も日常の行動半径であつた。時には安倍川や高松海岸、用宗海岸も自転車での目標であつた。

中学では東・西の汽車通学生、郊外からの自転車通学生、仰止寮生等と交友関係も広まった。

小河君は体格も頭健で学業も優秀で、何事も徹頭徹尾やり遂げる

不屈の精神の持主であつた。小学生の頃から野球の選手であつた。

静中ではもとより旧制静岡高校時代も選手として活躍され、全国高校大会、対浦和高校戦等でも名声をあげていた。

大正十五年朝日新聞社主催の第十二回全国中等学校野球大会では外野手として出場された。

県大会では相手校に得点を許さず完全優勝した。

神静大会でもその余勢を駆って神奈川県代表の神奈川一中に大勝して、三年連続して甲子園に出場することになった。

上野一福島(主将)の名バッテリーも絶好調であり、一回戦は不戦勝で二回戦は優勝候補の早稲田実業と対戦して九対二で大勝した。

三回戦は前橋中学と対戦して先取点を取られていたが、八回裏に大量得点して五対五とし、その後両者譲らず延長十九回まで進み、その裏二死後築地君が四球で出塁し、続く国友君が安打で出て次に福島君も安打して築地君が生還して勝利の一点を獲得した。

延長十九回戦は当時の最長記録である。

準決勝戦は四国の強豪高松中学との対戦で前日の十九回戦の疲労が心配されたが、上野投手の好投

で五A対一で快勝することができた。

決勝戦は全満代表の強敵大連商業、一回戦で浪花商業、続いて敦賀商業、京城中学、和歌山中学と各地の強豪を撃破しての決勝進出であつた。

静中先攻で初められたが、二回裏一点先取されたが四回表一点を取り返して同点とした。以後上野一円城寺両投手の戦いとなった。

九回表福島主将が安打で出塁、続く田崎君の送りバントを投手が取り一塁悪投で無死二、三塁の絶好のチャンスとなった。

次打者は小河君で加藤周蔵監督がサインでスクイズを命じ、これが見事に成功して福島主将が生還して決勝の一点を取ることができた。各選手の活躍もさることながら小河君の最後の一打が見事大成功を取めたのである。

九回裏は上野投手の力投で打者を押えて一塁フライ、三振、三振でウイニングボールは見事福島主将のミットに収まった。

第十二回全国大会の優勝も名声の高かった根井久吾校長、中村藤平部長の慎重さ、加藤周蔵監督の執念との三位一体の御指導と、三代目応援団長井出多米夫氏の熱意、並びに野球後援会各位の絶大

なる御支援の賜の結晶である。

大優勝旗を手にした福島主将を先頭に野球部員は凱旋し、その翌夜応援団主催の提灯行列も行われ呉服町七間町札の辻を廻つての全市あげての歓迎ムードとなった。

小河君は静岡卒業後、難関の旧制静岡一東京帝国大学へ進まれ、御卒業後は大陸を目指されて大同学院に入られた。修了後は広い大陸で十二分に活躍されていた。

終戦後は御苦労もあつたが無事帰国されて、小学校より大学まで同学であつた講談社野間省一社長

の知遇を得て、キングレコード株式会社に入社され経営陣で活躍されて混乱期を乗り越えて、今日の会社の基礎を造られた功績は偉大なものである。

幸いにしてお優しい敏子夫人も御健在で、御子息三名も社会の第一線で活躍されて夫々御一家をなされておられる。

小河直人君、何卒安らかにお休みください。後に残された私どもも土産集めて行くから彼岸よりお見守りください。合掌

影山友安氏(67期)

脳内出血により長期療養、リハビリ中でしたが、本年二月十八日入院中の慶応病院にて永眠。

葬儀には、67期関東同窓会として生花を、67期同窓会としてはご香典をお供えし幹事が弔問、ご冥福をお祈りしました。謹しんでご報告致します。合掌。

(67期幹事)

その後の同窓会活動

(平成4年12月～5年5月)

◇新年会兼幹事会

1月19日(火) 18時～

新日本証券の地下大食堂



第7回 印高会 ゴルフ会 箱根カントリー倶楽部にて

出席者：65名

・4年度行事のまとめと5年度事業予定・会報発送の件

乾杯の音頭をとられた三十八期の石割先輩は「皇太子妃内定の佳き日、皆元気で同窓会をますます盛んにしていこう」と檄を飛ばされた。

◇幹事会

3月25日(木) 18時30分～

新日本証券地下一階食堂

出席者：34名

・今後の運営および総会に関し
・会報35号原稿の依頼 など

◇役員会

5月14日(金) 18時～

新日本証券 役員会議室

出席者：10名

・総会準備、打合せ
・運営の改善策討議 ほか

◇第七回印高会ゴルフ会

5月21日(金)

箱根カントリー倶楽部

参加者：22名

優勝：清水雅尚(77期)

2位：野方重人(77期)

3位：上杉重吉(60期)

浦田周社の木版画展

74期の浦田兄は、江戸時代から続く静岡の浮世絵木版処「版隈」の六代目を継承し、その伝統技法

をもって、的確な彫り、摺りすべてをひとりてこなす数少ない木版画家として活躍している。

五月六日から六日間、銀座松坂屋の画廊で木版画展が二年ぶりに開催された。今回は皇太子ご成婚を記念した「鳳翔之雲」をはじめ日展入選の「お水取シリーズ」そして「ふるさとの四季」など、迫力があって親しみやすく、同窓生はじめ観る者に感銘を与えた。訪静の折は駒形通一丁目二一七の浦田賢扇堂を尋ねてみては……彼独自の画境をますます展開されることを祈ってやまない。

(編集委員)

江の島会

第46回「江の島会」開催予告

一、日時 九月五日(日)正午開会

一、場所 江の島恵比寿屋旅館

(35期永野清氏経営)

一、会費九千円 女性七千円

(記念写真代等を含む)

年会費不要

一、連絡先 江の島会事務局

(59期 奥沢 勝山塗装内)

(〇四五(30) 五五四五)

一、追記：八月上旬頃ご案内いたしますが、遠近を問わず多数のご参加をお待ちしております。

国際線航空貨物・海外旅客取扱い
運輸大臣登録旅行業代理店業3440号

株フジ・ワールド・エンタープライズ

代表取締役 中馬 敏雄 (70期)

〒105 東京都港区浜松町2-8-9 春原浜松町ビル

貨物電話 3434-0591 (代)

旅客電話 3437-5861 (代)

FAX 3434-5537

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科
人間ドック

かん
熱 函 病 院

院長 小坂 博 (67期)

住所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3131

静岡だより

雨と泥に泣いた定期戦

雨天のために四月二十九日から順延された静岡との定期戦が、五月二日に島田球場で行われた。

この日もあいにくの雨模様だったが、再順延の場合はOB戦が取り止めになるといふ背景もあり、雨中のというより田んぼの中での熱戦となった。

3回、2-2の時点で、あまりの雨足の激しさに5回までで打ち切りが宣言され、4回の攻防では泥沼状態でのプレーのため、暴投やら捕逸やらで点の取り合いとなった。

静岡は、いったんは2-4の劣勢を5-4とひっくり返したものの、最終回の5回表にはランナー一二塁ながらツーアウトをとり「あと一人コールド」の中で、静岡の代打・神谷は平凡なセリフで、ライ。ところが、ボールはぬかるみに足をとられてつまづいたセンター・杉本の前にボトリ、2点が入ってそのまま5-6で5回降雨コールドで敗れた。通算成績は24

勝18敗。

(静岡・静岡定期戦)

静岡	0 2 0	2 2
(五回降雨コールド)		
静岡	0 2 0	3 0
		5

また、定期戦に先立って行われたOB戦では、5回までは1点を争うシーソーゲームを展開していたが、6回に3点を追加した静岡に3-7と大きくリードされた。

いよいよ最終回7回の裏、満塁ホームランでもやっと同点という場面だったが、何と7本の安打を集中して5点をとり、大逆転に成功、8-7と快勝した。

(静岡・静岡OB戦)

静岡	0 0 2	0 2 3	0	7
静岡	2 0 0	1 0 0	5X	8

投打がうまく噛み合い

春季県大会を制す

春の選抜出場を賭ける秋季大会ほどではないが、春季大会も地区予選から県大会、東海大会へと続く高校野球の春のビッグ・イベン

トである。その春季大会を迎えた静岡野球部は、最近の傾向を引き継ぐ打撃

中心のチームで、打順に多少の変動はあるが、鈴木・杉山・深津・杉本・石垣・滝口と続く上位陣は破壊力がある。

地区大会では、好投手を揃えた静岡を下して中部1位となった静岡は、五月四日から九日にかけて富士、あしたか球場で開催された県大会に臨んだ。

地区1位として2回戦から登場した静岡は、五月五日にまず西部3位の興誠と対戦したが、大型右腕の定評が高い坪井の好投に打撃陣がこずって、1-1のまま延長戦へ。10回の表に2点を入れ、その裏1点を返されたものの、何とか3-2で逃げ切った。

辛勝とはいふものの、投手戦を乗り切った松永・志村・杉山の三本柱にめどが立った一戦だった。

(県大会2回戦)

静岡(中部1位)	0 0 1	0 0 0	0 0 0	2	3
興誠(西部3位)	0 0 0	0 0 0	0 0 1	1	2

興誠(西部3位)

五月九日の準決勝では、西部2位の磐田南と対戦したが、今度は打撃陣が2回戦のうっぶん晴らしとばかりに大爆発。投手の志村以外は全員安打で11点を挙げ、11-2の7回コールドで大勝した。

圧巻は6回裏の猛攻。磐田南の

エラーと四球で無死満塁となるとこの回合計で打者13人、6長短打で8点を奪って試合を決めた。

この試合ではエースナンバーの「1」をつけた志村がねばり強い投球をみせ、7安打・5四球という内容ながら2点に抑えて、7回を投げ切った。

(県大会準決勝)

磐田南(西部2位)

100	0 0 1	0	2
(7回コールド)			
100	0 2 8	X	11

静岡(中部1位)



→県大会決勝戦6回裏・三塁打の深津を杉本がタイムリーを放って迎える。(静岡新聞社提供)

同日に引き続いて行われた決勝は、県大会前には「総合力ナンバーワン」の下馬評が高かった西部1位の掛川西との対戦となった。初回に2点を先取した静岡は、4回に1点をとられて肉薄されたものの、終盤にダメ押し点を加えて6-2で掛西を振り切り、8年ぶり5度目の春季県大会の優勝を飾った。

(県大会決勝)

掛川西(西部1位)

0 0 0	1 0 0	0 1 0	2
2 0 0	0 0 2	1 1 X	6

静岡(中部1位)

筆者は、先号の静岡だよりで、昨年の秋季県大会での戦いを評して「優勝した浜南と比べて勝負強さに欠けて、戦力に歩留まりがある」と書いたが、この大会では、良い意味での「静岡らしくない」試合運びが光った。巨人の長嶋効果になぞらえて、八木新監督の効果というには、ちと早トチリだろうか？

県大会の三試合を振り返ってみると、対興誠戦では、苦しいリレーながら三投手が踏ん張り、同点に追いつかれ延長戦にもつれ込まれても、再反撃のうっちゃりをみせた。

準決勝の対磐田南戦では、相手

のミスにつけ込んで、与えられたチャンスを実に活かして、一気に持ち前の猛打を爆発させた。

優勝候補筆頭の掛川西との決勝では、うって変わった緻密な展開を披露してくれた。

初回到セーフティーバントでの出塁を確実に送って好機を作り、深津の三塁打で1点。そしてきつちりと犠飛で2点目を奪った。

1点差に詰め寄せられた六回にはまたも深津の三塁打を足掛かりにして、犠打と犠飛を絡めて2点を追加し、7回と8回の得点も、犠打と犠飛でのものであった。

守りでも、先発の左腕・松永が制球難を逆手にとって、狙い球を絞らせない頭脳の投球で強打の掛川西打線をかわし、つないだ杉山が完璧なリリーフでの締め括りをみせた。

東海大会での結果をみないとはつきりとはいえないが、打線が現在の好調を持続し、杉山が(本来の)エースナンバーをつけるようになる、夏の甲子園はかなり有望だといえる。

もっとも、静岡県大会では第一シードの甲子園行きの確率が異常なほど低いことや、前評判が高い時の静高は意外にもろい結果に落ち着いていることを考え合わせる

と、バグネット裏すずめはあまり騒がずに、八木新監督の手腕に任せておくのが賢明な策といえるかもしれない。

Ｊリーグいよいよ開幕！

今年はＪリーグ元年と呼ばれる。昨年サッカーのプロチームが誕生して、前哨戦としてのナビスコ・カップなどで大人気を博しましたが、いよいよ今年からリーグ戦も始まり、文字どおりＪリーグが開幕する訳です。

われらが静岡県代表の清水エスパルスは、ヨーロッパ流に地域に根ざしたクラブチームといえますが、他の九チームは地域の名前をチーム名に冠してはいるものの、有力企業のバックアップを背景にした、いわばプロ野球方式のチームになっています。

サッカーどころ静岡県には、すでにＪリーグに加盟した清水エスパルス以外にも、プロ入りを狙っているチームが多くあります。その筆頭はＪ１リーグ(日本サッカーリーグ一部)アマチュア)で昨年一位になったヤマハＦＣ(磐田市)です。

ヤマハは、日立、フジタとともにＪリーグの準会員として、今年の成績が上位二チームに入れば、来年からはＪリーグに正式加盟で

きるとあって(Ｊ１リーグの1位か2位になればＪリーグに加盟できると)という説明もありますが、上記3チーム以外が1位か2位に入ってしまったら、Ｊリーグ加盟が一チームになってしまい、11チームという奇数ではカードが組めませんから、当然準会員の上位二チームということになります。今年にはファンクラブの設立やスポンサーの獲得などに着手し、昨年のブラジル代表ウィルソン・マノ選手を獲得して選手を補強するなど熱が入っています。順当にいけば、ヤマハのＪリーグ入りは確実といえます。

ヤマハ以外にも、Ｊ１リーグの中央防犯、Ｊ２リーグ(日本サッカーリーグ二部)アマチュア)のPJMフューチャーズなどもＪリーグ加盟の希望をもっているようだがんばっています。

静岡県の強力2チームをもう少し紹介しましょう。

清水エスパルスは、Ｊリーグ十チーム中で唯一、日本リーグに母体を持たずに、Ｊリーグ発足に合わせて創設されたチームです。

名称の『エスパルス』のエスは清水・静岡のイニシャルのSを、パルスは鼓動を意味しています。経営会社は「エスラップ・コミ

ュニケーションズ」で、テレビ静岡、静岡鉄道、鈴与などの地元企業ほか百社以上が株主となっています。さらにクラブチームとして清水市民や静岡県民を対象に、市民持ち株会を募集して、経営にあたっています。

大企業のバックがついていないことで資金難がネックでしたが、最近の増資で資本金も約十六億円となり、これを運転資金に充てながらチーム体制の確立を図っているところではあります。

監督は、ブラジル代表のゴールキーパーとして3回のワールドカップを経験したエメルソン・レオン氏。メンバーは「カズ」の実兄の三浦泰年、堀池巧、大槻克己、長谷川健太、沢登正朗など、地元出身者を中心にして、読売から移籍のトニーニョやブラジルのコリンチャンスからのミランジーニャなどの外国勢が加わって、昨年のナビスコカップでは準優勝、今年もリーグ優勝を争える布陣となっています。

もう一方の旗頭は、ヤマハＦＣです。ヤマハ発動機サッカー部を母体に、ヤマハ、SBS・静岡新聞社なども大口出資社となつて、平成四年八月に株式会社ヤマハフットボールクラブが創立されました。

四月に新チーム名を「ジュビロ磐田」と名づけて、着々と体制がためを進めています。ちなみに、ジュビロとはポルトガル語「スベイン語で「歓喜」「大喜び」を意味しています。

指導陣は、かの杉山隆一元監督がスーパースターとしてチーム全体に目を光らせ、清水東出身の長沢和明氏が監督に就任しています。メンバーは、日本代表のストライカー中山雅史、吉田光範を攻撃陣の中心として、長年日本代表としてゴールを守った森下申一が守備の要になっています。

ジュビロ磐田は、Ｊリーグ入りすれば、すぐにでも上位をうかがえる戦力があるといわれていますので、来年は静岡県内の二チームでのＪリーグの優勝争いが見られるかもしれません。

(八十五期 吉水 廣)

◎年会費未納の方へお願い

二千円の拠出を

ぜひよろしく！

「こえ」

気軽に筆を執って
お送りください

51 伊藤 潤吉
昨年は奈良東大寺の仁王の彈痕を頼まれて見に行きました。

寄付金を集める都合上と思ひますが私の報告書とは違う事が新聞やテレビで報道されました。

57 鈴木 明
愚生、昨年二月、解離性大動脈瘤にて生死の間を歩いておりました。幸いに聖マリアンナ病院の優秀な医師のおかげで生命を取り止め、元気になって、いのちの大切さ、報恩の心をしみじみと感じております。

68 瀬口寿一郎
関東同窓会の会報を毎号何よりもの楽しみとして愛読しております。

諸先輩の回想随想近況などいずれも素晴らしい内容で、何度読み返してもあきません。毎号が永久保存版です。特に昔の静岡の想い出や方言にふれているのがとても懐かしいです。

60 君島 康弘
退職して十分な時間を趣味に使

って退屈しないでいます。油絵具をこねてぬり、ねんどで人の頭をつくり、双眼鏡でバードウォッチング等々、日々新しい発見があります。

60 原 善三郎
思いきって娘夫婦の一家と二世帯住宅で暮らすことになり、家の建替えを始めました。この春には出来上がりますが、それまで仮住居で不自由をしのんでおります。入れ物は新しくなりますが、なかみがどう変わるか、それが今後の課題となりそうです。

61 相羽 達雄
徒らに馬令を重ねているという思いが強い昨今です。しかし生涯現役の仕事ですのでまだまだ頑張るつもりではあります。

61 花見 久
多発性骨腫瘍で通院治療中で、散歩以外の運動は禁止中です。

64 増田 政雄
去年は一月より十二月まで、まる一年間台湾に出張しておりました。妻もいっしょに来てくれました。

た。

台湾工場の再建指導も軌道に乗ったところで帰国し、バブル崩壊後の会社のぶざまさにうんざりして退職。失業保険を三〇〇日もらって悠々自適です。

67 朝倉 勇
初めての孫に、五日後対面します。彼は昨年九月ロンドン郊外に生まれ、このたび帰国する両親に抱かれて日本の空気を吸うことになったのです。生後五カ月ですが一人前にバスポートを使うそうです。ついにそういう年令になったかと複雑な気持ちです。

67 小杉 謙一
還暦を迎え愈々人生も晩年——と云うよりも再出発の年代と考えて頑張っております。健康もまあまあ。充実した日々を過したいと願っているものの、物忘れのひどさ等老化の現れにあわてる此頃です。

70 大地不二雄
昨年ゼネラル石油を退職し、(財)日本テニス協会です仕事をしていました。四月からは早稲田大学でテニス実技の講師を務める予定です。やはり好きなテニスの道に入りました。テニス界に少しでも役に立てばとこれからも精進します。

平成四年度会費拠出者

(順不同・敬称略)

平成4年11月1日～5年3月31日

五九 原木隆雄、熊倉均
清水江、湯本幸丸、菅原操

内田武男、長谷川邦三、瀬端一男

六〇 時田正康、原善三郎、河合睦郎、柴田正臣、辻村輝彦

萩原莊太郎、君島康弘、井出裕雄、山本正三、池上晴介、里見元一郎、原田竜二

鈴木正己
六二 花見久、宇都宮道和、相羽達雄、相馬孝、萩原将弘、稻森慎二、浜田茂明、芹沢博樹、高山秀男

六三 大塩幸男、大石一輔
六四 大沢三朗、吉川隆士、岡田光二、伊藤守、鱸邦雄、高田桂造

六五 増田政雄、田中耿、渡辺宏一、猿谷秀雄
六六 山下裕一、安田正弥、小林五郎、加藤昭、早見幸雄、藤原朝則、岡田隆、村松武司、永島秀次郎、原野谷朋司、牧田善司、永田陽一、内田幸雄、佐野辰美

六七 川上剛二、牧田仁男、小杉弘、松本安子、滝川博、朝倉勇、戸塚惣雄、小杉謙一、向井久和、手塚重明

六八 萩原多賀男、市原卓、白鳥健次、河口浩、小林功典、

五八 奥野広、原田和彦、須山静夫、望月恵一、世古真臣、

五七 高橋礼久、富田澄、鈴木明福住俊郎、鈴木克己

五六 原田昇左右、中村治郎、松田光彦

五五 堀江重遠、吉川鎧介、木村康宏、塚越修、杉原俊一、矢沢六雄

五四 渡辺治郎、平林一郎、磯野修、高井昂、山口道也

五三 鈴木弘雄、片桐鎮夫、志田寿一、三枝正裕、稲畑勝、手島正一、香林竹男

五二 石野浩一、岩本良雄、新美弘、苦米地一樓

五一 永井五一郎、河瀬士郎、伊藤善吉

四九 陰山修次、山村忠平

五〇 田中誠

四八 黒水高典、興津幸四郎、松岡喜郎、伊藤重久、富谷精一

四七 石川弘光、片山正二

四六 青木清明、内山規、篠原清西静男

四五 伊藤敬三、蝦原一郎

四三 長戸寛美、三宅静雄

四二 長戸寛美、三宅静雄

四一 長戸寛美、三宅静雄

四〇 長戸寛美、三宅静雄

三九 長戸寛美、三宅静雄

三八 長戸寛美、三宅静雄

三七 長戸寛美、三宅静雄

三六 長戸寛美、三宅静雄

三五 長戸寛美、三宅静雄

三四 長戸寛美、三宅静雄

三三 長戸寛美、三宅静雄

三二 長戸寛美、三宅静雄

三一 長戸寛美、三宅静雄

三〇 長戸寛美、三宅静雄

二九 長戸寛美、三宅静雄

二八 長戸寛美、三宅静雄

二七 長戸寛美、三宅静雄

二六 長戸寛美、三宅静雄

二五 長戸寛美、三宅静雄

二四 長戸寛美、三宅静雄

二三 長戸寛美、三宅静雄

二二 長戸寛美、三宅静雄

二一 長戸寛美、三宅静雄

二〇 長戸寛美、三宅静雄

一九 長戸寛美、三宅静雄

一八 長戸寛美、三宅静雄

一七 長戸寛美、三宅静雄

一六 長戸寛美、三宅静雄

一五 長戸寛美、三宅静雄

一四 長戸寛美、三宅静雄

一三 長戸寛美、三宅静雄

一二 長戸寛美、三宅静雄

一一 長戸寛美、三宅静雄

一〇 長戸寛美、三宅静雄

〇九 長戸寛美、三宅静雄

〇八 長戸寛美、三宅静雄

〇七 長戸寛美、三宅静雄

〇六 長戸寛美、三宅静雄

〇五 長戸寛美、三宅静雄

〇四 長戸寛美、三宅静雄

〇三 長戸寛美、三宅静雄

〇二 長戸寛美、三宅静雄

〇一 長戸寛美、三宅静雄

八五	八二	八〇	七六	七五	七四	七三	七一	七〇	六九	八七
嗣夫、中西富士男、竹田徹	寺尾易真、高橋成彰、三上	吉田昌史	入谷健彦	小池淳夫、石山建一、菅弘彦、小宮山和也	山内幸太郎、稲森和夫、岡村稔、宇野明彦、野田治江	今田肇	北村修	二、山口雅子、塚本豊、熊谷敦子、田形嘉之、望月保川口弘、森下俊男	小和田久雄、藤原経史、角谷治子、岩崎匡利、花本栄	小和田久雄、藤原経史、角谷治子、岩崎匡利、花本栄
八五	八二	八〇	七六	七五	七四	七三	七一	七〇	六九	八七
嗣夫、中西富士男、竹田徹	寺尾易真、高橋成彰、三上	吉田昌史	入谷健彦	小池淳夫、石山建一、菅弘彦、小宮山和也	山内幸太郎、稲森和夫、岡村稔、宇野明彦、野田治江	今田肇	北村修	二、山口雅子、塚本豊、熊谷敦子、田形嘉之、望月保川口弘、森下俊男	小和田久雄、藤原経史、角谷治子、岩崎匡利、花本栄	小和田久雄、藤原経史、角谷治子、岩崎匡利、花本栄

八七 望月節
九三 英公一
九八 桑原(白鳥)雅子

事務局より会員皆様へのお願

①会費の振込の際には、用紙の裏面に必らず期名を記入して下さい。

②住所変更及び勤務先部署等の変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。

③各期の幹事を募集しております。自薦他薦にかかわらず事務局に御連絡下さい。

④会報及び名簿に新たに広告掲載を希望する方は事務局にお知らせ下さい。

◎各期の幹事は、ぜひ幹事会へ出席してください。もし欠席の場合は代理の方に依頼をお願いいたします。

◎幹事が未定・不明の期では至急幹事を選出して、事務局まで連絡してください。

〒153 目黒区上目黒2-18-13
山中ビル タカラ歯科医院内
静中・静岡関東同窓会

(電) 〇三三七九二三五八〇
薬科名雄(87期)

1万円からはじめる株式投資

- ㊦ 毎月毎月
- ㊦ 1万円から
- ㊦ 好きな銘柄を
- ㊦ ドル・コスト平均法で
- ㊦ 積み立てて
- ㊦ 暮らして夢を...

るいとう
株式累積投資
マイストック



新日本証券

本店/〒101 東京都千代田区神田駿河台3-11 ☎03(3219)1111

相談役 大石 巖(53期)

常務取締役 谷川 治弘(70期) 常務取締役 海野 幸雄(71期)

名古屋支店 安原 興七(75期) 名古屋支店 原田 吉男(78期) 国際企画管理室(香港駐在) 小林 一郎(90期)

鈴木株式会社

取締役会長 鈴木与平 (44期)

清水市入船町11-1
TEL 0543(54) 3 0 1 5 (秘書課)

東京支店 千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル4F
TEL 03(3284) 0 5 5 3 (総務課)

株式会社 東電社

取締役社長 岩波信平 (42期)

東京都品川区西五反田1-14-2

TEL 03(3493) 6 3 9 1 (大代表)

建築コンサルタント・設計施工業務
建築に関する御相談は御気軽に……

株式会社 大雄

取締役社長 奥野孝 (53期)

本社 東京都台東区東上野2-18-7・共同ビル10階
TEL 03-3834-5331 (代表)

建築設計・監理

奥野建築設計事務所

取締役会長 奥野孝 (53期)

取締役社長 奥野進 (56期)

取締役副社長 奥野広 (58期)

本社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル
Tel 03-3842-6 8 3 1 (代表)
静岡事務所 静岡市安東2-8-14
Tel 054-246-9 3 7 8

日本レーベル印刷

代表取締役 岩井平一郎 (57期)

本社 静岡市国吉田3丁目1番1号

TEL 054(262) 1 1 1 1 (代)

東京 中央区京橋1-1-6越前屋ビル8F
TEL 03(3272) 4 6 5 1 (代)

自動車・電機部品の自動塗装及びシルクスクリーン印刷

勝山塗装工業所

代表取締役 奥澤徹 (59期)

本社 横浜市瀬谷区橋戸3-25-6 〒246

Tel 045-301-5545

大和工場 大和市深見3706-1 〒242

Tel 0462-62-0340 FAX 0462-62-0343

東松山工場 東松山市大字新郷88-47 〒355

Tel 0493-24-2511 FAX 0493-24-2513

建築設計・監理

ユニオン設計センター

代表取締役 成岡英彦 (67期)

一級建築事務所登録7425号

東京都新宿区西新宿7-14-9 規格ビル

TEL 03-3363-8 6 0 4 (代表)

株式会社 富士越

株式会社 富士越化成

代表取締役 野澤正憲 (64期)

東京都渋谷区東2-14-9

TEL (3409) 3 3 4 2 (代)

TEL (3400) 9 5 4 1 (代)

☎ 昼2時より夜11時まで診療 ☎

タカラ歯科診療所

代表 藁科名雄 (87期)

東横線 中目黒下車徒歩5分

TEL 0120-376480

☎ 朝10時より夜10時まで診療 ☎

鈴木ビル歯科

代表 藁科名雄 (87期)

京王線 下高井戸駅前

TEL 03-3321-6 4 8 0